

JBA OFFICIAL BASKETBALL RULES 2020 EXPERIENCE RULES VOL.7

ルールエクササイズ vol.7
(2020年11月15日配信)

【B級・A級・S級審判ライセンス、3級・2級・1級・T級審判インストラクターライセンスの皆さま】

新型コロナウイルスの影響により、本年度のライセンス更新に係るルールテストは従来の形では実施いたしません。
ルールテストの代わりに本ルールエクササイズを配信いたしますので、ぜひ競技規則や問題集を閉じてトライしてみてください。



QUESTION 31

A1とA2はどちらもセンターライン近くのフロントコートに両足を完全につけて立っている。
その状態でA1はA2にバウンスパスをした。A1の手を離れたボールは1度バックコートのフロアに弾んだのち、
A2にキャッチされた。審判はA1もA2もバックコートには触れていないため、
ボールを不当にバックコートに返していないと判断してプレーを続行させた。(○ / ×)

QUESTION 32

暴力行為が起こった時や起こりそうな時、交代要員、ヘッドコーチ、ファーストアシスタントコーチ、
5個のファウルを宣せられたチームメンバーやチーム関係者は、審判に協力して争いを止めるためであれば、
チームベンチエリアを出ることができるが、チームベンチエリアを出たにもかかわらず、
争いを止めようとしなかった場合は失格・退場となる。(○ / ×)

QUESTION 33

B1がA1にパーソナルファウルをした。これはチームBのこのクォーター5個目のチームファウルであり、
A1に2本のフリースローが与えられることになったが、A1ではなくA2がフリースローラインに立った。
審判がフリースローシューターの誤りに気づいて笛を吹いた時、1投目のフリースローのボールは
A2の手の中にあった。フリースローは取り消され、ゲームはサイドラインのフリースローラインの延長線上の
アウトオブバウンズからチームBのスローインで再開される。(○ / ×)

QUESTION 34

チームAのスローインでショットクロックは残り1秒を表示していた。
スローインをするA1の手から離れたボールがチームBのプレイヤーの手に当たった。
ゲームクロックは動かし始めるが、ショットクロックはその後A2がボールを掴んでから動き始める。(○ / ×)

QUESTION 35

B1はショットの動作中のA1に触れ合いを起こしファウルを宣せられた。A1のショットは成功したが、
その後A1はB1に対して威嚇行為を行なったため、テクニカルファウルを宣せられた。
A1の得点は認められるが、両チームに与えられる罰則は相殺される。
ゲームはエンドラインからチームBのスローインで再開される。(○ / ×)

今回のルールエクササイズの解答と解説は、次回映像配信(2020年12月15日配信予定)とともに配信いたします。

JBA公式ホームページでは、競技規則、JBAプレーコーリング・ガイドライン、ルールテスト問題集などをご確認いただけます。

<http://www.japanbasketball.jp/referee/>